令和 <mark>7</mark> 年度 **事務事業マネジメントシート**

		7和	7	年度 事	事務事業マ	ネンメン ト							作成				月 1			
					担当課 総務市民課			(:	(3)指標の推移		4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
事	务事業名	車両行	管理事	業	担当G	地域振興グループ			活動指標(実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
								会計	款 項	目備却	ź	伯男伯悰 (夫旭仏仇)	早12.	(実績)	(実績)	(実績)				
まちつ	ゔく りプラン	振 7	<行則	す政>市民とと	:もに歩む「ム:	ダ」のない経	予算科目	1	2 1	1	-	ま 大	4	8	7	7	7	7		
	本 目 標)	1000	営			-						車検台数	台	8	7	9				
/ /m		計	/-	/		(-) w . 11-	\. \. # F					**	D.	20	20	20	20	20		
(個)	別目標)	画 1	幼半日	りで質の高い行	「政経営が推進さ	されるまち	主な費目	需用費、役	:務費、使用#	・及び賃借料、公課	費(イ	修繕件数	件	15	23	24				
/ 44	L 644)	体	/	무성 소리 국 #									277.71.	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標	
()h	短 策)	系 2	行政於	H織の効率化	畝の別学化			 公用車、職員				成果指標(成果・効果)	単位	(実績)	(実績)	(実績)				
/ 446		終					対象	公用車、	、職員				7.	12	12	12	10	10		
(基)	本 目 標)	合									7	公用車台数	台	12	12	12				
	·	戦						昭和4	14 年度	~				2, 200	2,200	2, 200	2,200	2, 200		
(短 策)	略					事業期間		年度	(年間) 1	公用車利用回数	旦	1, 757	1,679	1, 535				
			i	4年度	5年度	6年度 (実績・決算)	7年度	8年度		9年度		\			,					
(1) 新	事業費の	性移	単位	(実績・決算)	(実績・決算)		(計画・予算		画・予算)		· <u>〔</u>	4)評価	所管課による評価							
Ŧ.	財国県支出	H.A	千円	(3 2.5)	0.000	2001 01317	(1117)		, , , , , ,											
間事	源っていた		千円			3, 579			•••••	-		400	・公用車を利用する職員が安全快適に運転できた。							
ト 業	訳 一般財源		千円	2,890	2, 483		3, 44	 18	2,600	2, 60	0 有	市民のニーズ事業の効果	・公用車を集中管理することにより維持管理ができた。							
' _g 質	事業費計	(A)	千円	2,890	2, 483	3, 579	3, 44	_	2,600	2, 60	一一六	・政策との整合性	・公用車の故障等による業務停滞を防ぎ効率的に運営ができた。 ・車は定期的なメンテナンスが必要であり、							
, 	* //*/	年間)	人	0, 100	0, 100	0, 100	0. 10		0. 100	0, 10		・事業を廃止の影響								
つ 件	人件費概算		千円	560	560	560	56		560	56	E-	・類似事業との連携	車の安全走行の支障となる。 ・公用車の配置してある支所で対応した方が効率的である。							
^ _	(A) +		千円	3, 450	3, 043	4, 139	4, 00	-	3, 160	3, 16	- ПП	・公平性					正にに利			
	「業概要									0,10	Ť									
日的 事業		公用車を集中管理することにより管理が行き届き、利用する職員が公用車を安全快適に運転できる。											・毎日の運転日誌の確認や例月点検により、公用車の維持管理ができた。							
内容	集中管理し	理している公用車を利用する職員が常時快適に利用できるように維持管理(車検・修理等)する。										□・関係者との連携								
	昭和44年庁舎建築の開始と同時に車両管理事業も開始された。また、市町村合併により支所の公用車の台数 は減となったが、インフラの整備により公用車の予約や使用状況を各課端末から確認できるようになり公用 車管理事務の効率化が図られている。											対・目指す状況	・公用車を利用する職員が安全快適に運転できた。 ・公用車の故障等による業務停滞を防ぎ効率的に運営ができた。 ・毎日の運転日誌の確認や例月点検により、公用車の集中 管理により維持管理ができた。							
	共済の更新	1) 公用車の燃料や維持管理費の支払業務 (2) 交通事故や修繕等の不具合発生時の対応 (3) 車両損害 斉の更新手続き (4) 公用車の車検 (5) 公用車の運転日誌の確認 (6) 公用車の例月点検 (7) 公用車 更新及び廃車										平・情勢、環境の変化	・インフラの整備により公用車の予約や利用状況を各課端 未から確認ができるようになり公用車管理事務の効率化が 図られた。							
					より公用車の状 運転することが	· · · · ·	拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終													
		食等には経費を伴うが日頃からの点検により突出した経費等がないように注意する必要がある。また、公 車の老朽化による更新を計画的に行う必要がある。										中 改 車検等には経費を伴うが日頃からの点検により突出した経費等がないように注意 善								

令和 7 年度 **事務事業マネジメントシート**

作成日 令和 7 年 7 月 1 日作成 (3)指標の推移 5年度 7年度 担当課 総務市民課 4年度 6年度 8年度 9年度 事務事業名 地域振興グループ 庁舎管理事業 担当G (目標) (目標) (日標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 まちづくりプラン 1 2 1 3 20 20 20 <行財政>市民とともに歩む「ムダ」のない経 20 2.0 ア修繕及び委託件数 件 (基本目標) 17 13 16 150 150 150 150 150 主な費目 イ 清掃回数 (個別目標) 効率的で質の高い行政経営が推進されるまち 需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料 口 148 148 148 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 系 2 行政組織の効率化 成果指標 (成果・効果) 単位 (実績) (実績) (実績) 対象 市民、職員 0 ア苦情件数 (基本目標) 件 0 0 0 年度~ 44 (施策 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源との他特定財源 千円 市民のニーズ 書 訳 一般財源 千円 7,500 7, 500 6,777 6,900 11,718 39, 432 事業の効果 ・庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できた。 事業費計 千円 6,777 6.900 11,718 39, 432 7,500 7,500 ・政策との整合性 (A) ・庁舎管理規則、行政財産使用条例に基づき公平・公正に 事業を廃止の影響 ^{'レ} 人 所要人員 (年間) 0,200 0, 200 0, 200 0, 200 0, 200 0.200 人 利用している。 類似事業との連携 千円 1, 120 1,120 1, 120 1, 120 1, 120 1, 120 公平性 (A) + (B) 千円 7, 897 8 020 12,838 40, 552 8 620 8 620 (2)事業概要 業 事業効果向上 庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できる。 • 事業費削減 的 事務の効率化 庁舎の維持管理及び各設備の保守点検業務委託並びに庁舎 · 費用対効果 清掃業務委託が主な事業費であり削減余地はない。 事 (1) 庁舎設備の維持管理 財政負担の必要性 業 (2) 各設備の保守点検業務委託及び庁舎清掃業務委託 ・関係者との連携 (3) 庁舎の利用者が常時快適に利用できるように整理整頓する。 容 昭和44年庁舎建築により開始された。 達・数値目標 成・目指す状況 庁舎設備の維持管理や保守点検業務委託及び庁舎清掃業務 度 • 実現性 委託、庁舎内外の整理整頓を行い庁舎利用者が庁舎を安全 情勢、環境の変化 に快適に利用できた。 (1) 庁舎の光熱水費や維持管理の支払業務(2) 修繕等不具合発生時の対応(3) 業務委託契約の締結 施 価・事業期間 (4) 建物損害共済の更新手続き(5) 庁舎備品の購入及び廃棄(6) 庁舎の清掃及び整理整頓(7) 行政 状 財産貸付(8)修繕に伴う事務処理等 況 拡充 現状維持 ○ 改善 効率化 廃止終了 庁舎設備の維持管理や保守点検業務委託及び庁舎清掃業務委託、庁舎内外の整理整頓を行い庁舎利用者が庁 舎を安全に快適に利用できた。 善R7年度は、LED照明設置工事を行うことにより執務室の改善を図る。 案

また、庁舎耐力度調査を行い、老朽化状況を把握し、今後、庁舎の有効活用につい 庁舎及び庁舎設備等が老朽化し、修繕が増加傾向にある。 てどのように行っていくのかなどの具体の考え方を示す判断基準とする。 題

令和 7 年度 **事務事業マネジメントシート**

作成日 令和 7 年 日作成 7 (3)指標の推移 担当課 総務市民課 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 事務事業名 (目標) 観光施設管理事業 担当G 地域振興グループ (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) 単位 活動指標 (実施状況) 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 3 3 3 まちづくりプラン <生活環境>自然や風土と共生する安心で豊か 1 3 3 3 ア修繕及び委託件数 (基本目標) なまち 3 2 4 72 72 72. 72 (個別目標) 憩いにあふれ住みたくなるまち イ 清掃回数 主な費目 需用費、役務費、委託料 口 72 72 70 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 4 公園・緑地の整備 (実績) (実績) (実績) 対象 市民 0 ア苦情件数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 件 0 0 0 年度~ Н7 (施 策 1 快適な生活支援プロジェクト 事業期間 年度 (年間) 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (4)評価 (1) 総事業費の推移 所管課による評価 (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算) (計画・予算 (実績・決算) (実績・決算) 財国県支出金 千円 事源その他特定財源 千円 市民のニーズ | 本| 訳 | 一般財源 千円 2,945 2,951 2,349 3,089 3,000 3,000 事業の効果 松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務を 事業費計 3,000 千円 2,945 2,951 2,349 3,089 3,000 ・政策との整合性 (A) 行ったことにより観光施設利用者が施設を快適に利用でき 事業を廃止の影響 人 所要人員 (年間) 0.050 0,050 0.050 0.050 0,050 0.050 人 類似事業との連携 ス 費 人件費概算 (B) 千円 280 280 280 280 280 280 公平性 (A) + (B) 千円 3, 225 3, 231 2,629 3, 369 3 280 3 280 (2)事業概要 業 事業効果向上 観光施設利用者が施設を快適に利用できる。 • 事業費削減 的 事務の効率化 観光施設利用者から利用金徴収もなく公平・公正に利用し てもらっている。 · 費用対効果 事 財政負担の必要性 業 松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務。 ・関係者との連携 容 |旧松山町で城山総合公園内の松山城址展望台は昭和61年度から62年度、大谷山自然公園は平成7年度に設置 • 数値目標 され開始された。その後、市町村合併により新市に引き継がれた。 成・目指す状況 松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務をす 度 • 実現性 ることにより観光施設利用者が施設を快適に利用できた。 実 評・情勢、環境の変化 施 (1) 観光施設の光熱水費や維持管理費の支払業務(2) 修繕等不具合発生時の対応 価・事業期間 状 (3)業務委託契約の締結(4)施設損害共済更新手続き(5)日本庭園陥没復旧作業等 況 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務をすることにより観光施設利用者が施設を快適に利用 できた。 ☆ 善<mark>引き続き観光施設利用者が施設を快適に利用できるように、松山支所管内にある</mark> 宏観光施設の維持管理及び清掃業務に努める。 適切に維持管理されているが、多少施設の老朽化が進んでいる。 題

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 7 年 7 日作成 (3) 指標の推移 7年度 担当課 総務市民課 4年度 5年度 6年度 8年度 9年度 地域振興グループ 事務事業名 地域活性化事業 (秋の陣まつり事業補助金) 担当G (目標) (目標) (日標) (月標) (目標) (日標) 単位 活動指標 (実施状況) 款 項 目 備考 (実績) (実績) (実績) 予算科目 7 まちづくりプラン 3 16 16 <産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅 1 16 16 16 ア 定例企画会回数 口 (基本目標) 力あふれるにぎわいのまち 12 12 11 200 200 200 200 200 **自**担金補助及び交付金 (個別目標) 地域資源を生かした観光のまち 主た費目 イ 定例企画会参加人数 110 120 120 (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (目標) (施 策) 成果指標 (成果・効果) 単位 1 観光資源の整備、活用 (実績) (実績) (実績) 対象 市民 50,000 50,000 50,000 50,000 50,000 ア入場者数 (基本目標) 魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる 3. 000 25, 000 20,000 年度~ 350 350 350 350 H1 350 イスタッフ数 (施策 5 観光パワーアッププロジェクト 事業期間 年度 (年間) 100 200 200 4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 9年度 単位 (1) 総事業費の推移 (4)評価 所管課による評価 (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (実績・決算) (計画・予算) (計画・予算 財国県支出金 千円 事源との他特定財源 千円 市民のニーズ 書 訳 一般財源 ・平成元年度から継続してきたイベントであり開催時期も 千円 3, 150 5,832 5,832 5,832 5,832 5,832 事業の効果 定着してきている。また、年々内容が充実してきており県 5, 832 事業費計 千円 3, 150 5,832 5,832 5,832 5,832 (A) 政策との整合性 内外からの来場者も増加している。 事業を廃止の影響 ^{'レ} 人 所要人員 (年間) 0.100 0.100 0.100 0.100 0.100 0.100 ・市の三大イベントとしてそれそれのまつりに由来があ 類似事業との連携 千円 560 560 560 560 560 560 り、現時点での統廃合は難しい。 公平性 (A) + (B) 千円 3, 710 6 392 6 392 6, 392 6 392 6 392 (2)事業概要 |豊かで住みよい地域づくりを目指して、人づくり、イベントを柱とした市民総参加による地域活性化事業を 事業効果向上 目 推進し、松山地区を発信源とした産業の発展を図る。 • 事業費削減 事業費は市の補助金と協替金が主であり、地域おこしの会 的 事務の効率化 員の方々が市内外より協替金を徴収し運営しており、事業 費の削減となると協力団体との連携やまつり運営への支障 · 費用対効果 事 財政負担の必要性 が予想される。 業 大隅の國やっちく松山藩秋の陣まつりの開催 ・関係者との連携 実行委員会及びやっちく定例企画会議の開催 容 平成元年「松山の名前も場所も知らない県民が多い」「独自の発想で活動する場がない」等の意見からむら 必始 おこし若者会が発足し、自分たちの力で手づくりの祭りをしたいとの意見が出され、文治4年(1188年)に要経 松山城を築城した平重頼の末孫である現代の若者たちが知恵と勇気を出し尽くし、松山町に新たなる活力と 富を呼び起こしていこうという設定で、大隅の國やっちく松山藩第1回「秋の陣まつり」を開催した。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために開催延期となっ • 数値目標 てきたまつりを、令和5年度は通常開催することができ 成・目指す状況 た。このことにより多くの来客を誘致でき、観光入込客数 実現性 の増加に寄与できたと思われる。 令和2年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期してきたまつりであったが、令和5年 評 ・情勢、環境の変化 令和6年度も通常開催を目標とし、多くの来客を見込みた 度は通常どおりのまつりの開催ができた。 事業期間 前夜祭、本祭と2日間開催し、内容としては、奉納武者行列をはじめ舞台発表、野菜やサムライ鍋の大盤振 る舞い、子供広場、陣馬そり競争等を行った。 毎月1回実施される定例会議において、各プログラムや実施内容等について吟味し、例年実施してきた同 拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 規模のまつりの実施に向けて協議し本祭に臨んだ。 当日は25,000人(主催者発表)を集客し、盛大なまつりを行うことができた。 また、新しい城の製作にも3年がかりで取り組み第6代目の松山城のお披露目もできた。 まつりの質を落とさないよう、やっちく定例企画会議において、イベント等の見 | **直しを行い、今後も検討していく必要がある。** まつりに参加する各組織の人が思うように増えておらず、まつり運用にも苦慮するところがある。今後の まつりに対してどのような方向で進めていくかを定例企画会議でも協議し方向性を見出す必要がある。